

愛郷無限 人間到る処 青山有り



輝く島原人

THE SCENE Vol.60 島原に生きる

かつての上折橋町の自宅付近に立つ橋本さん（しまばら火張山花公園）

全力で全うした教員生活

杉谷地区の上折橋町に生まれ、折橋分校、第四小学校に通った橋本さん。教職の道を志し、長崎大学を卒業後、第三小学校の新任教諭として赴任。市内小学校を中心に教壇に立ち、島原市教育委員会では指導主事として勤務。対馬での離島勤務も経験しました。

55歳の頃、雲仙・普賢岳噴火災害さなかの平成3年4月に第三小学校の校長として着任します。「第五小学校を三小で受け入れることになり、三五小（さんごしょう）と呼んで仲良く学校生活を送ろうと子どもたちを励ましました。体育館は避難所になっており、大火砕流発生後は校長室に泊まり込む日々が続きました」と、当時を振り返ります。

平成8年3月、第一中学校の校長として定年を迎え、教員生活を終えましたが、雲仙・普賢岳噴火災害は、橋本さんの人生に大きく影響を及ぼすこととなりました。

《失われたふるさと》への想い

火砕流の猛威は千本木・上折橋地区にも及びました。自宅は火砕流の直撃は避けられたものの、噴石や火山灰による被害は免れませんでした。また、火山堆積物による土石流も発生。下流域に位置する市街地を守ることを目的に、砂防ダム建設が計画され、締切堤内にある上折橋町内会は解散を余儀なくされました。「断腸の思いでした。しかし、噴石や火山灰、火砕流や土石流の恐怖を考えると、もうここには住めないと

「人生の達人」

はしもと てつや
橋本 徹也さん(86)

昭和11年、上折橋町で生まれ、育つ。教職の道を志し、大学卒業後、教師として小学校の教壇に立つ。雲仙・普賢岳噴火災害では住み慣れた上折橋町が被災し、市内で避難生活を送る。定年退職を機に雲仙市国見町へ居を定めるも、ふるさと島原へ帰り、現在に至る。

杉谷地区悠友クラブ連合会会長(H30～H31)、自ら作詞を担当した「スギタニ」歌と踊りの保存会会長(H28～)を務める。下折橋町在住。

毎日のように通う山の木陰でひと休み



山で飼育するポニーのお世話を楽しむ



移設された折橋神社の清掃活動に毎月参加

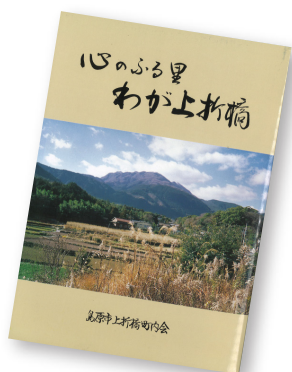


いう、あきらめの気持ちもありました。そして市街地を守るための砂防ダム建設ということで、町内会としても計画を受け入れるしかありませんでした」と、当時の苦悩を振り返ります。

町内会が解散することとなり、ふるさと
の記憶を残すための記念誌づくりでは編集
責任者として奔走しました。「積もる思い
があつたでしょう。多くの原稿が寄せら
れました。チラシの裏面だったりノートの
紙片だったり。そこに書かれた一文一文を
重く感じました」短期間にも関わらず、皆
さんの思い出が詰まった記念誌『心のふる
里 わが上折橋』は無事完成し、町内の皆
さんへ配られました。

ふるさとを離れて18年間、雲仙市国見町
で生活していましたが、8年前に杉谷地区
に帰ってきました。現在は下折橋町で奥様
と平穏な日々を過ごしています。

「噴火災害は大変な経験でしたが、やる
べきことはやったと思っています。今は大
好きな山仕事やポニーの世話を楽しんでは
います。まだここには田畑や山林が残ってい
ますからね。これからも人に迷惑をかけず、
自然と共生し、子どもたちの手本となるよ
うな暮らしを送ろうと思っています」と、
穏やかな笑顔で語っていただきました。



解散記念誌「心のふる里 わが上折橋」